

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 翻訳センター
 コード番号 2483 URL <http://www.honyakustr.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 郁男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長 (氏名) 中本 宏

TEL 06-6282-5013

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	6,668	2.8	285	9.8	287	11.8	154	34.6
26年3月期第3四半期	6,481	25.5	259	2.8	257	1.3	114	2.2

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 159百万円 (23.1%) 26年3月期第3四半期 129百万円 (14.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	91.52	—
26年3月期第3四半期	67.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	4,125	2,671	64.7
26年3月期	4,063	2,587	63.6

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 2,671百万円 26年3月期 2,587百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	48.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,400	7.1	480	31.7	480	33.3	270	50.8	160.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	1,684,500 株	26年3月期	1,684,500 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	— 株	26年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	1,684,500 株	26年3月期3Q	1,684,500 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による各種経済対策および金融政策の効果により企業収益や設備投資の増加、雇用・所得環境の改善がみられるなど、総じて緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループでは今期を最終期とする第二次中期経営計画において「すべての企業を世界に繋ぐ言葉のコンシェルジュ」という経営ビジョンを掲げ、言葉に関する事業領域の拡大による新たな価値創造を推し進め、企業のグローバル展開に伴う翻訳・通訳需要の獲得に努めてまいりました。

これらの結果、当社グループのコアビジネスである翻訳事業が堅調に推移したものの、派遣事業が低調に推移したことから、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比2.8%増の6,668百万円となりました。利益面においては、翻訳事業の増収と粗利率の改善により、営業利益は前年同期比9.8%増の285百万円、経常利益は前年同期比11.8%増の287百万円、四半期純利益は前年同期比34.6%増の154百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、株式会社アイ・エス・エスを中心としたコンベンション事業を報告セグメントの区分に変更しております。以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① 翻訳事業

特許分野では、世界的な米系コングロマリットの日本法人との取引開始など、企業の知的財産関連部署に対する新規開拓は順調に推移しているものの、主要顧客である大手電機メーカーからの発注の一時的減少や特許事務所からの受注が低調に推移したことから、売上高は前年同期比0.8%増の1,293百万円となりました。医薬分野では、新薬申請資料の翻訳において、プリファードベンダー（注）契約に基づく外資系メガ・ファーマ、ならびに、国内製薬会社からの受注が好調を維持していることに加え、国内製薬会社、ならびに、国内化学メーカーの医薬品開発部門から新薬申請と製造工程に関する大型のスポット案件を獲得したことから、売上高は前年同期比8.0%増の1,632百万円となりました。工業分野では、売上の主軸となる自動車関連企業において複数の完成車、ならびに、部品メーカーから大型のスポット案件を獲得したことに加え、エネルギー関連企業の継続案件や総合電機メーカーのローカライズ案件を受注したことにより、売上高は前年同期比4.2%増の1,335百万円となりました。金融・法務分野では、法律事務所や保険関連企業における受注増加や企業の管理系部署への営業活動の奏功に加え、金融情報サービス企業から大型のスポット案件を獲得したことから、売上高は前年同期比7.5%増の425百万円となりました。これらの結果、翻訳事業の売上高は前年同期比4.8%増の4,686百万円となりました。

② 派遣事業

派遣事業は語学に長けた人材を派遣する人材派遣事業と主に外資系企業に人材を紹介する人材紹介事業の2つから構成されています。人材派遣事業においては、主に銀行や保険などの金融関連企業や医薬品関連企業などからの長期派遣案件の受注は堅調に推移したものの、登録者不足の影響で売上を伸ばすことができず、また、人材紹介事業においては、候補者の確保が及ばず売上が低調に推移したことから、売上高は前年同期比0.1%減の1,004百万円となりました。

③ 通訳事業

通訳事業においては、製薬会社や通信関連企業からの受注が引き続き好調に推移したことに加え、大手鉄道会社からスポット案件を獲得したことから、売上高は前年同期比7.4%増の471百万円となりました。

④ 語学教育事業

語学教育事業においては、株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートの通訳者・翻訳者育成でのレギュラーコースの受講申込が計画通りに推移したことから、売上高は前年同期比1.2%増の166百万円となりました。

⑤ コンベンション事業

コンベンション事業においては、受注は好調に推移しておりますが、前期に受注した大型スポット案件（「第5回アフリカ開発会議（通称：TICAD V）」）の反動により、売上高は前年同期比25.0%減の255百万円となりました。

⑥ その他

その他のセグメントにおいては、外国への特許出願に伴う明細書の作成や出願手続きを行う株式会社外国出願支援サービスが好調に推移したことなどから、売上高は前年同期比36.5%増の83百万円となりました。

（注）プリファードベンダーとは、企業が優秀な人的リソースの確保と費用低減を狙い、優先的に業務を委託する特定の調達先（ベンダー）を指す。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は3,414百万円となり、前連結会計年度末に比べ115百万円増加いたしました。これは主に売掛金が増加したことによるものであります。固定資産は710百万円となり、前連結会計年度末に比べ53百万円減少いたしました。これは主に減価償却により有形および無形固定資産が減少したことおよび、差入保証金が減少したことなどにより投資その他の資産が減少したことによるものであります。

この結果、総資産は4,125百万円となり、前連結会計年度末に比べ62百万円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,288百万円となり、前連結会計年度末に比べ9百万円増加いたしました。これは主に買掛金および未払法人税等が減少したものの、その他流動負債が増加したことによるものであります。固定負債は165百万円となり、前連結会計年度末に比べ30百万円減少いたしました。これは主に年金資産の積立により退職給付に係る負債が減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,453百万円となり、前連結会計年度末に比べ21百万円減少いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,671百万円となり、前連結会計年度末に比べ83百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益の計上等により利益剰余金が78百万円増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績予想については、現時点では平成26年5月14日の決算発表時に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,663,339	1,675,462
受取手形及び売掛金（純額）	1,290,045	1,404,391
仕掛品	88,594	116,299
その他	257,220	218,761
流動資産合計	3,299,198	3,414,914
固定資産		
有形固定資産	188,689	169,184
無形固定資産		
のれん	216,826	170,323
その他	70,686	105,857
無形固定資産合計	287,512	276,181
投資その他の資産	287,768	265,167
固定資産合計	763,970	710,532
資産合計	4,063,169	4,125,447
負債の部		
流動負債		
買掛金	602,807	563,514
未払法人税等	100,293	66,166
賞与引当金	133,198	124,305
その他	442,852	534,584
流動負債合計	1,279,151	1,288,570
固定負債		
役員退職慰労引当金	35,400	35,400
退職給付に係る負債	106,253	86,132
その他	54,391	43,603
固定負債合計	196,044	165,136
負債合計	1,475,195	1,453,707
純資産の部		
株主資本		
資本金	588,443	588,443
資本剰余金	478,823	478,823
利益剰余金	1,492,794	1,571,171
株主資本合計	2,560,060	2,638,437
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	27,914	33,302
その他の包括利益累計額合計	27,914	33,302
純資産合計	2,587,974	2,671,740
負債純資産合計	4,063,169	4,125,447

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）
売上高	6,481,030	6,668,329
売上原価	3,675,184	3,682,105
売上総利益	2,805,845	2,986,224
販売費及び一般管理費	2,546,336	2,701,036
営業利益	259,508	285,187
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	—	2,311
その他	3,246	1,817
営業外収益合計	3,246	4,129
営業外費用		
為替差損	5,425	1,492
その他	—	108
営業外費用合計	5,425	1,601
経常利益	257,329	287,716
税金等調整前四半期純利益	257,329	287,716
法人税等	143,485	133,535
少数株主損益調整前四半期純利益	113,844	154,180
少数株主損失（△）	△677	—
四半期純利益	114,521	154,180

（四半期連結包括利益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	113,844	154,180
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△695	—
為替換算調整勘定	16,406	5,388
その他の包括利益合計	15,711	5,388
四半期包括利益	129,555	159,568
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	129,600	159,568
少数株主に係る四半期包括利益	△45	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育 事業	コンベン ション事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	4,469,867	1,005,868	438,850	164,466	340,772	6,419,825	61,205	6,481,030
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,805	19,771	13,199	936	—	36,713	30,269	66,982
計	4,472,672	1,025,639	452,050	165,403	340,772	6,456,538	91,475	6,548,013
セグメント利益	179,757	30,170	36,018	18,819	19,849	284,615	23	284,639

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	284,615
「その他」の区分の利益	23
セグメント間取引消去	20,900
のれんの償却額	△46,031
四半期連結損益計算書の営業利益	259,508

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育 事業	コンベン ション事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	4,686,540	1,004,512	471,597	166,537	255,548	6,584,736	83,593	6,668,329
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	9,973	11,756	14,230	784	—	36,744	30,278	67,022
計	4,696,514	1,016,269	485,827	167,321	255,548	6,621,480	113,871	6,735,352
セグメント利益	223,005	3,956	27,902	21,001	14,339	290,205	398	290,604

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	290,205
「その他」の区分の利益	398
セグメント間取引消去	36,471
のれんの償却額	△41,888
四半期連結損益計算書の営業利益	285,187

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他」に含めていた「コンベンション事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。